

2025 年度海外研究員成果報告書

1. 氏名：国際関係学部国際学科 准教授 平井芽阿里
2. 出張期間：2025 年 4 月 1 日～2025 年 8 月 31 日
3. 出張先：ソウル大学日本研究所（客員研究員）
4. 所在地：大韓民国ソウル特別市冠岳路 1 ソウル大学校国際大学院 140 棟 403 号

研究課題：現代韓国の民俗宗教に関する文化人類学的研究

研究内容：

申請者は約 20 年間、沖縄を中心とする聖地や村落祭祀、神役に関する研究を行ってきた。2019 年から 2020 年にかけては現代沖縄のシャーマニズムについて再考し（単著『ユタの境界を生きる人々 現代沖縄のシャーマニズムを再考する』創元社、2020 年）、2020 年から 2024 年 3 月までは JSP 科研費（基盤研究 C、JP20K01227）で「学校のフォークロア 伝承母態の再構築と地域学校融合型社会に関する人類学的考察」と題する研究を行った。この研究では、ソウル特別市と坡州市で現代韓国の「合格祈願」を中心に 3 度の短期調査を行っている。本研究では、これまでの研究を基礎とし、ソウル特別市を中心とする現代韓国の民俗宗教について文化人類学的にフィールドワークを行うことを目的とした。具体的には、合格祈願とシャーマニズムの 2 点についての調査である。

1) 現代韓国の合格祈願に関する調査：

①まずは、韓国の大学修学能力試験（スヌン）の合格祈願に関する調査を寺で実施した。調査は、ソウル特別市にある曹溪寺を中心とし、奉恩寺、奉元寺、法蓮寺、龍岩寺、プサン広域市にある海東龍宮寺の計 6 箇所を 4 月から 8 月にかけて継続的に行った。曹溪寺、法蓮寺では 100 日祈祷への参与観察も行った。結果、計 6 箇所の寺で受験生自身、または家族による合格祈願が 8 月から 11 月にかけて毎年実施されていることがわかった。

②次に、合格祈願グッズに関する調査をソウル特別市、プサン広域市の書店、雑貨店、DAISO で行い、合格祈願を模したグッズについて調べた。結果、御札シール、御札カード、御札ボールペン、御札メガネ拭き、御札チョコレート、御札絆創膏、御札おしぼり、御札キーホルダー、御札封筒などの種類があることがわかった。また、大学を志願する受験生が購入する「合格祈願セット」についても調べることができた。

③そして、合格祈願の体験や状況等について 30 代から 60 代の男女 8 名、寺の住職、寺で勤務する従業員等にインタビュー調査を行った。結果、現代韓国における合格祈願の位置付けが明らかになった。

2) 現代韓国のシャーマニズムに関する調査：

①まずは、30代男性3名、30代女性2名にムーダン（巫者的職能者）の利用に関するインタビュー調査を行った。その際に出てきた「ムーダンゴリ（巫者の店が集まる通り）」（江南）、従来の研究で指摘されてきたソウル特別市のムーダンが集中して居住するムーダンマウルについて調べた上で（梨花女子大前、奉天洞）、江西区を中心としたムーダンゴリを継続的に調査した。結果、現在でも複数のムーダンが密集し、営業していることがわかった。

②次に、ムーダンについての概要や歴史について調べるために、国立民俗博物館での調査を行った。また、ムーダンが出演する2つのTV番組、映画、ドラマ、書籍についても調べ、ムーダン自身が書いた著作なども入手することができた。文献資料調査は江西区の図書館やソウル大学図書館でも行った。

③さらに、江南区で活動するムーダン（40代女性）へのインタビュー調査を行った。結果、祭壇を持たず巫具も使用せず、YouTube等の活動も行うムーダンの現代的側面について明らかにすることができた。



ムーダンについての展示（2025年8月2日撮影於国立民俗博物館）

研究成果：

このように、この5ヶ月で現代韓国の民俗宗教に関する貴重なデータ収集が可能となった。調査で得た研究データは、沖縄の事例とも比較研究を重ねながら分析していく予定である。また、合格祈願とムーダンに関する調査は今後も継続していきたい。

なお、今回の研究で得た知見等については、2026年に『琉球・沖縄文化事典』（丸善出版）、『西原創立150周年記念誌』（西原創立150周年記念事業期成会）、風媒社からも単著を刊行予定である。2025年10月には高校での招待講演等も予定している。

謝辞：

最後に、5ヶ月間の海外研究を無事に遂行できたのは偏にソウル大学日本研究所の皆様のご協力のお陰です。所長を始めお世話になった先生方、日本研究所のスタッフの皆様には、改めまして心より深く御礼申し上げます。現地調査やインタビュー調査にご協力いただいた皆様にも重ねて深く御礼をお伝えします。